

超長期ビジョンの構成について（案）

1 2050年の環境・社会像を描く構造について

2050年の環境・社会像を描く考え方と環境・社会像の構成については、これまでの議論を踏まえ以下のようなものとして良いか。

（第7回3月6日資料3 - 4（第8回参考資料1）参照。第8回4月17日資料の内容を一部変更することとなる。）

（これらの整理を確認した上で、資料2以下検討及びその後の検討を行い、社会像やそれと環境像との関係等の実質的内容の検討を深め、取りまとめに向けて進んでいくこととしたい。（資料2に、第7回資料3-4に基づく項目一覧と、「3」「5」「6」の内容案を記載。））

（1）社会経済の趨勢(第7回資料「3」に対応。)

ア「社会経済の趨勢」の段階では、社会経済の趨勢・動向については、蓋然性が高いと思われるものを、幅を持って想定・設定する。

その上で、変動可能性や、予期しがたい事象の発生に留意すべきことを明記する。

イ「社会経済の趨勢」の中には、外国、国際情勢を中心に我が国の政策による変動可能性が少ない(外部条件的色彩が強い)ものが多い。しかし、国内の経済、人口、居住状況など政策により変更可能な部分もあるという認識の下に整理する。

ウ 後の「2050年の社会像」(第7回資料「6」に対応)の記述においては、外部条件的なものに関しては「社会経済の趨勢」の内容を前提する検討をまず行う。

（外部条件については、現時点での趨勢を元に予測されるものが中心とならざるを得ないため。）

その上で、予測の変動幅、予期しがたい事象の発生等の場合の検討をこれに加えて行う

エ また、「社会経済の趨勢」のうち、持続可能性確保のために政策・取組により変化可能性のある要素(国内の経済、食糧自給、出生率、人口配置等)については、「2050年の社会像」の中で、趨勢を踏まえつつ、政策的目標の方向を考慮に入れて記述する。

（2）環境像(第7回資料「5」に対応)

・環境像は、持続可能性を満たす範囲内で記述する。（非持続可能的なBAUの設定検討の積極的な記述は特に行わない。）

・持続可能性の条件を満たすための環境・資源に関する具体的な条件（以下「環境条

件」という。)は複数設定して検討する。

- ・ 複数を設定する環境・資源の要素としては、地球温暖化及び物質循環を想定。
(例えば各2つ)

(3) 持続可能性の条件を満たす2050年の社会像(第7回資料「6」に対応)

持続可能性上(環境・資源上)の条件をクリアする目指すべき社会像を、環境条件に関する複数の具体的設定について記述する。

目指す社会の形としての複数検討は、グローバル化重視を強化したもの、自立重視を強化したものということによいか。(計3つ)

外部環境の変動について留意すべきことを記述する。(以外の項目の変動は、感度分析的に取り扱う。)

(4) 目指すべき社会に至る経路(第7回資料「7」に対応)

- ・ 経路については、複数検討する。

2 補足(前回資料との関係など)

なお、第8回(3月6日)資料1-1においては、「社会像は、『これが目指すべき社会像』という規範的性格を持ったものでは必ずしもなく」、「対照的な設定を行ったシナリオについて検討していく」、)としていたところであるが、対照的な両極端のみを検討するというのではなく、目指すべきものの候補例を検討することとし、異なる設定を含めて複数検討するということとしたい。

また、同資料においては、グローバル化重視、国家自立重視に関して、その二つを検討することとしていたが、目指すべきメインの像について検討の上、グローバル化重視及び国家自立重視の傾向をそれぞれ強めた場合どうなるかを検討することとしたい。